

復活したミニスカ、その“中身”を ノゾくと...

キーワードは「上品」ながらヒザ上20センチも登場

ミニスカートが売れている。バブル期以来、実に10数年ぶりの本格的流行という。ひざ上20センチの「マイクロミニ」まで登場するほどで、男性諸氏にはうれしい限りだが、景気とビミョーに相関関係があるともされるミニスカ。ブームの裏側をノゾいちゃえ！

「ミニスカートはここ数年売れています。丈は明らかに短くなっています。昨年ごろから、主流はひざ上10センチの45センチ丈が中心になっています」。こう話すのは、アパレル大手「イトキン」（東京・千駄ヶ谷）の担当者。

売れ筋はツイードや千鳥格子などの素材で、デザインは台形やプリーツといったクラシカルなスタイル。ピンクやグリーンなど鮮やかな色が目につく。

東京・渋谷などでは、ヒザ上20センチ、目にもまぶしいマイクロミニが闊歩する。こちらは10代後半から20代前半に人気で、特に、関西エリアでブレイクしているという。

ジーンズ素材のシンプルなものやフリル、ハート、リボンつきなど、この冬は「上品」をキーワードに女の子らしいモチーフが復活し、街にあふれている。

イトキン担当者は「若い子は制服以外ミニを経験していない世代。新鮮なのではないか」と分析する。

もっとも、若い世代だけかという、そうでもない。

「クローゼットから10数年前のミニを引っ張り出した」と笑うのは、銀座を歩いていた30代前半のOL。イトキン担当者も「若者だけでなくヤングミセス層にも売れている」と証言する。



芥川賞作家、金原ひとみさんのミニスカ姿（写真左）も鮮烈だった

[復活したミニスカ、その“中身”をノゾくと...](#)

[“政界失樂園”畑恵、「参院出馬」打診を安倍が拒否](#)

[バグダッド日本大使館、「ロケット弾テロ予告」](#)

[モスクワ地下鉄テロ、「未亡人決死隊」の犯行か](#)

[国公立大、泥棒には“広き門”？窃盗行脚の男逮捕](#)

[中学講師が書店で中3女子スカート内盗撮](#)

[「オレオレ」の次は子供の「ゴメンナサイ」詐欺](#)

[小泉“ロンドン留学歴疑惑”に「願書残っている」](#)

[ニチメン・日商岩井、1800億円損失処理へ](#)

[空港デートが減少する！？カップル襲撃15件](#)

[塩と間違え...握るときには味見してネ](#)

[生なし、輸入なし...豚肉食べても大丈夫](#)

[幸か不幸か?!鶏肉食べ死亡したら賠償金](#)

[シャネルが銀座に仏料理店...「三つ星シェフ」と共同](#)

[“七人の警官”...逆襲し](#)

殿方も喜んでばかりいられない。ミニとともに今シーズン登場したのが、ニーハイブーツなるヒザを隠す丈の長~いブーツ。プランタン銀座は「足が曲がらないので、実際に買う人はあまりいない」と話すが、ロングブーツは「前年の3倍にあたる1日80本という爆発的売れ行き」（同）。

ブーツのほか、懐かしのレグウォーマーも復活。日本女性は足にコンプレックスを持つ人が多く、「ブーツにミニなら、かえって体形カバーになる」（イトキン担当者）ということらしい。

ミニスカといえば、よく言われるのが好景気とスカート丈の相関関係。1920年代、米国の経済学者が言い出したのが始まりとされ、「短くなると景気が良くなるのは、タイツなど付随するものにお金がかかるから」「最近是不況の象徴」など諸説ある。

日本では昭和40年代前半のいざなぎ景気、60年代後半からのバブル期と好景気とリンクすることが多い。

おみ足より、こちらのほうが気になるという人もあろうが、流行の発信源は「今年はオードリー・ヘプバーンさんが亡くなってから10年で、海外の有名ブランドがテーマに取り上げた。また、ツイギーら60年代ファッションが注目されているから」（プランタン銀座）という。

「ファッションの多様化で、以前のように爆発的ヒットにはならない」（オンワード樫山）というものの、「今春もスカートは全体的に短め」（イトキン）。いずれにせよ、寒風の街を歩く楽しみが増えそうだ。

ZAKZAK 2004/02/07

HOME